

徳くほ報

No. 57

発行

令和4年7月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区

榴岡3-10-3

(022)297-4248

tokusenji.sendai@gmail.com

ai@gmail.com



ホームページ

[tokusenji-](http://tokusenji-sendai.com)

[sendai.com](http://tokusenji-sendai.com)



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

公開同朋会の報告

七月九日(第二同曜日) 公開同朋会がありました。いつもの同朋会より少し拡大して広く呼びかけ、「徳泉寺ってどんなところ?」「法話ってどんなお話なの?」という方にも気軽にご参加いただける機会としていきます。お久しぶりにご参加された方や誘い合わせてご参加いただいた方、またホームページを見て初めてお寺を訪ねてくださった方もありました。

まずは皆さん揃って赤い『勤行集』の中の「正信偈」という親鸞聖人の書かれた偈文を読みました。コロナ禍でマスクをしたままのお勤めです。息苦しさを感じ、いつもよりも早く息が切れる気がします。しかし、他の人の声が聞こえにくいので自分の称える声がよく聞こえる、ということもあるように感じました。

法話は、六月十一日に行われた親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要の「お待ち受け大会」で帰敬式(おかみそり)が挙行されたことを受けて住職からは「三つのもどどり」前住職からは「仏弟子の誕生」というテーマでお話しをしました。

終了後は立ち話に花が咲き、名残惜しく解散となりました。



住職法話「三つのまじわり」

帰敬式は仏弟子となり法名をいただく式ですが、またの名を「剃刀の儀(おかみそり)」と言います。これは、剃刀(かみそり)を三回頭髪に当てる髪を落とす様子を再現するからです。なぜ、三回なのか。これは三つのもどどりを落とすためとも言われます。もどどり、とは髪を結ぶ結び目のこと。三つのもどどり、とは私たちの身に備わっている三つの煩惱を表わしています。それは「勝他(しょうた)」、他と比べて勝りたい気持ち。「名聞(みやうもん)」、褒めてほしい、世間に認めてほしい気持ち。「利養(りよう)」、利益を求めていたい、不利益を被りたくない気持ち。これは、もどどりであるわけですから私たちの生きる上でとても大事な気持ちだとも言えます。ですから、取ればいい、というものではありません。この三つの気持ちの根っこに在るのは「私」です。この「私」が迷い苦しむことのないように、この三つのもどどりを意識して自分を見つめたい、ということなのです。

前住職法話「仏弟子の誕生」

法名は戒名とは少し違います。戒名は「どれだけ戒律を守ったかの名乗り」。それに対して法名は「仏弟子であるという名乗り」です。決して死後の世界の名前ではありません。そうではなくて仏の教えを授け所(ところ)に生きていくという心構えの名乗りです。では、法名をいただいた今までは仏弟子ではなかったのか。そんなことはありません。お名前をいただくことで新たに思い起こすということがあるのでしょうか。

親鸞聖人の師、法然上人は「戒無用」とおっしゃいました。戒を守り切れない私でありながら、念仏の教えの上に人間の本来性の成就を問いつつ生きていく。生まれてきてよかったという道を尋ね続け、この世に生を受けたことに満足したいという生命、存在そのものの願いに気づいていく。この仏道を歩み、信心に生きる人の日々の生活は「ありがたい(有難い)」という心に生きるといふことです。あるはずがないものが現に与えられている。畏れを持って生活の一つ一つを受けとめることです。